

くすのき

第1回目のアンケートにご回答いただき、ありがとうございました。集計結果を報告いたします。□
結果については学校評価委員会で取り上げ、協議しました。今後の学校教育に活かしていきたいと考えています。
また、学校運営協議会でも報告し、地域の皆様とよりよい学校づくりを進めていきたいと考えています。

〈分析と考察〉

はじめに

本校は、昨年度より、研究教科を体育科として、「主体的・対話的で深い学び」を目指すようにしています。その中で、自他の心身の健康について考え、その実践的な態度を養えるようにしたいと考えました。また、特別の教科 道徳科や総合的な学習の時間でも、いのちの学習に重点をおき、自他の生命の大切さを考える時間を増やすようにしました。このことから、今年度よりアンケートにおいて、設問11「外で体を動かして、元気に遊ぶようにする。」と、設問13「人の命は何よりも大切なものです。」という項目を設けることにしました。

1. 児童について

全体の分析として、本校児童においては規範意識がよく育成されているといえます。合言葉「みそあじあははは」の継続した指導をこれからも進めています。児童のほとんどが、人の「命」は大切であることをしっかりと考えられていました。今後は、相手の気持ちを考えること、人の話をしっかりと聞くこと、自分の考え方や思いを話すことなどが、自他の人権を大切にすることとなり、人の「命」を大切にすることと関わることを考えられるようにしていきたいと思います。

しかし、少数ではありますが、他者とのかかわりに課題がある児童も見受けられます。社会に生きる人間性を育んでいくため、児童が互いに人の気持ちを考え、友達と仲良く楽しくすごせるような取組を継続していきたいと考えます。

一方、以下の項目については課題とらえました。

- (10)自分の考え方や思いを話す。
- (12)外で元気に遊ぶ。

自分の考え方や思いを話すことについて、低学年も高学年も20%以上の児童が「あまりできていない」「できていない」と答えています。学習では、挙手による発表だけが、話すことではありません。ペアやグループなど学習形態等を取り入れて、自分の思いや考え方を安心して話せる学級の雰囲気を大切にしていきます。

外で元気に遊ぶについては、低学年も高学年も20%前後の児童が「あまりできていない」「できていない」と答えています。高学年になるにつれて、できている児童が減ってきている傾向もあります。低学年については、1年生の1学期は学校生活の安全上、休み時間に運動場で遊ぶことを控えていたことが原因と考えられます。また、高学年については、6年生児童のアンケートの記述欄で「いそがしくて、外で遊べていません。」と書いている児童もみられました。高学年になると、委員会活動や行事の取組、学習など休み時間の過ごし方が変わっていることも事実です。休み時間には、担任自身も外遊びに加わり、子どもたちと活動できることを期待しています。

2. 教職員について

全体を通して、教職員の「よくできている」の割合が低いと考えられます。それに対し、「できていない」という回答も少ないです。教育の正解はひとつではなく、絶対的なものはありません。教職員が自信をもって「よくできている」と言えるように、何をもって「できている」のか「できていない」のか、取組を具体化し、判断基準も明確にしていくべきだと考えます。以下の3点は、教職員の「できていない」「あまりできていない」の割合が高かったため、校内で改善に向けた会議を行いました。

- (5)読書の習慣が定着するように読書活動の取組を工夫している。
- (8)早寝、早起き、朝ごはんの生活習慣の定着に向けて、指導を繰り返し行っている。
- (14)子どもがPTA行事や地域行事にすすんで参加できるよう、詳しく知らせ、積極的に働きかけている。

(5)(8)については、「学校の取組や合言葉として指導はしているが、特別な取組までは至っていない。」「よりよい取り組み方も分かっているが、実態にそぐわず、実行できていない。」といった理由が挙げられたので、教職員同士が、取り組み方の工夫を提案し合い、自信をもって、取り組める方法を試していくようにしたいと思います。また、(14)では、お知らせを児童に配布するだけに留まっている傾向も見られました。配布プリントには、概要について声をかけて配布するように教職員同士で共通認識をしました。

3. 保護者について

保護者の皆様につきましては、いつも本校教育にご理解とご協力を賜り、本当にありがとうございます。今回、読書への働きかけが「よくできている・大体できている」を含めて半数を切っています。学校での読書や図書館活用について、再度お声かけいただければ幸いです。また、夏休み明けに実施した子どもたちの生活チェックを確認していると、テレビやゲームの時間も多くみられました。今後も、家庭学習や読書、基本的生活習慣を心がけることについて、様々な点で学校と連携していただくことになるかと思います。また、自由記述から保護者の方々が働きかけても、子ども自身できないことが…、と書かれている方も多くおられました。保護者と学校が同じ方向で子どもに働きかけることが、子どものよりよい成長につながります。今後とも、よろしくお願いします。

〈今後について〉

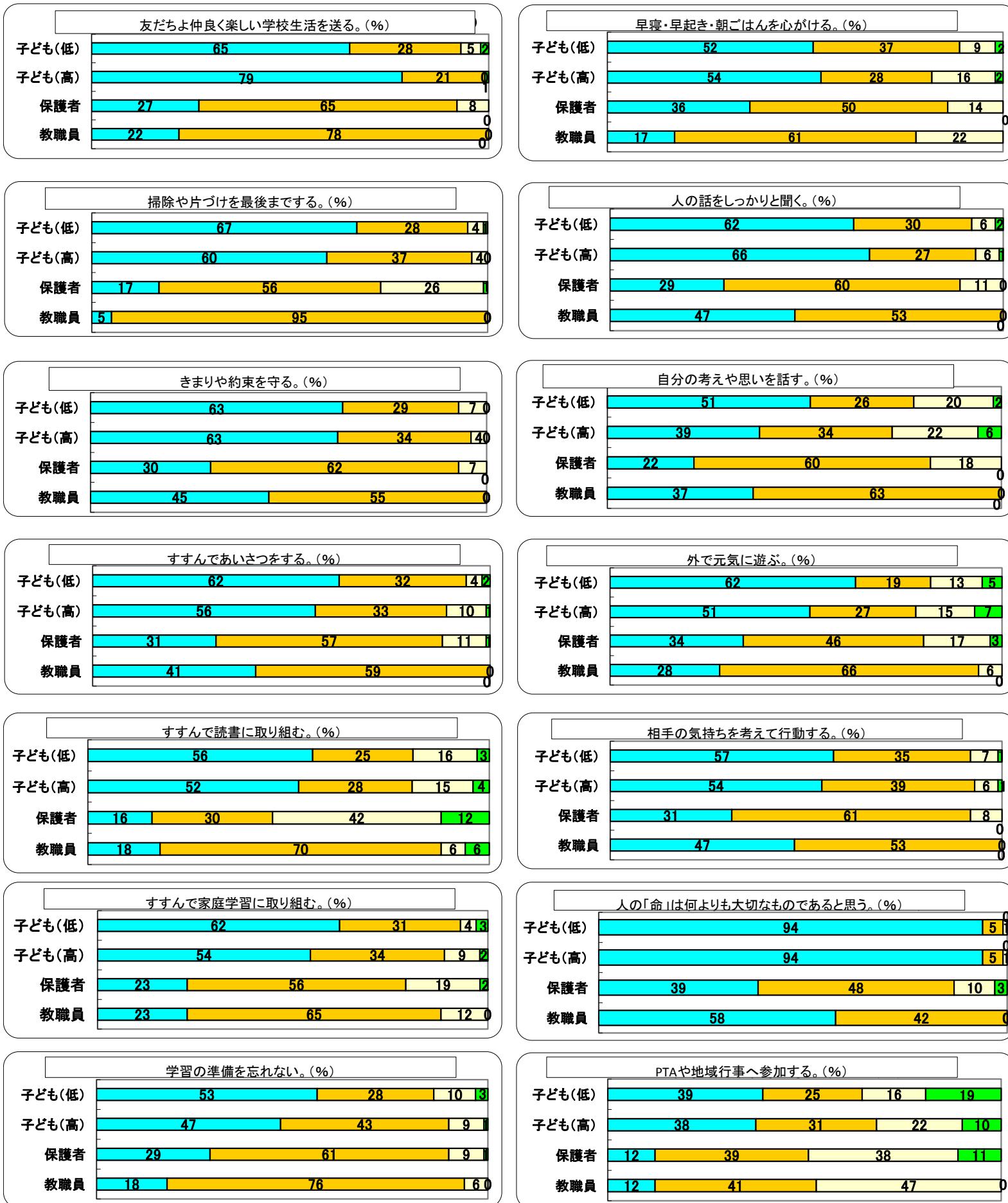
アンケートにご協力いただきありがとうございました。今回、子ども・家庭・学校がアンケートを通じてそれぞれ自己評価をしました。その結果から見えてきた課題に対して、今後どのように解決していくかを考えるよい機会になりました。教職員が共通の意識をもって学校教育の向上に努めています。また、保護者の方にも、自由記述欄にもたくさんのご意見をいただきました。ありがとうございます。保護者の方の働きかけ、困りなどを自由記述欄に書いていただくことにより、学校と同じ方向で、子どもたちに働きかけていることを感じることができました。次回アンケートについては、12月に実施させていただきます。アンケートの記入について、今後もご理解とご協力をよろしくお願い致します。

第1回目のアンケートにご回答いただき、ありがとうございました。集計結果を報告いたします。

凡例（左から） Aよくできている B大体できている Cあまりできていない Dできていない

アンケートは、子ども・保護者・教職員それぞれによる自己評価です。子どもについては、自分自身の実現度を質問しています。保護者・教職員については、自分の子どもへのかかわり方での実現度について質問しています。

(例)児童：友達と仲良く楽しい学校生活を送っている。
保護者：誰とでも仲良くするように働きかけている。
教職員：友達と仲良く楽しい学校生活が送れるよう学級づくりを進めている。



※教職員については、担任でないと答えられない項目もありますので、無回答は母数に入れていません。

※グラフの数字は、全体の割合の概数ですので、0と表記されても、選択されている人もいます。